

## 第十五回 (株) USEN 番組審議会 議事録

開催日時：平成 17 年 6 月 14 日 11:00～

開催場所：(株) USEN 山王パークタワー13F

プレゼンテーションルーム

出席者 委員：小林亜星、有馬祐行、池田憲一、山本武司、渡辺英夫、青木寶久（順不同・敬称略）

放送局側：8名

## 議事内容

## 1. 会社動向についての報告

## 2. 放送事業についての報告

4月番組改編について

## 3. 番組課題

TV&amp;映画系番組について（K-8 TV 主題歌創世記、H-26 スクリーンミュージック、AE-52 TV CINEMA NOW）

## 4. 番組審議

- 今回の審議対象番組のコンセプトが全体的に不明瞭な印象を受ける。
- H-26 に関して、元来クラシックは POP とは融合せず、市民生活に入って来にくい。なので、クラシックとは違う、より身近なムード音楽として、日本人の感性に訴える音楽を選曲してほしい。
- 例えば K-8 に関して、どういうコンセプトであるのか、雑誌「音楽と人」など紙面にて歴史的視点で紐解いてみてはどうか。
- 番組内でも、紹介楽曲をバンド別・楽団別など、明瞭化してみてはどうか。
- 現在の映画音楽は、最後のエンドロール紹介時に映画本編とは全く別のタイアップ楽曲が流れるなど、映画にサントラを後付けしたような展開であり、商売としての面が強い。映画本編内容とより連動するような映画音楽の展開があればより良いのではないか。
- ドラマ音楽に関して、ドラマシーンを思い起こさせるような、ロマンあふれる音楽がなくなってきている。（現在の韓国映画・ドラマの BGM はその点充実しているため、サントラのヒットにつながっている）
- かつては、皆が同じ時間に同じ TV・番組を見ていたためその使用楽曲が大ヒットにつながった。しかし現在は需要・供給の多様化のため、その共通性を見出すのは難しくなり、そこからヒットが生まれることも難しくなっている。しかし、インスト楽曲においては、多数の媒体で集中的に放送を行うなど戦略的にヒットを生み出すことは十分可能である。
- 「かつての名曲」が現在 TVCM などで利用され、そのインパクトで若者にも認知されている。このような楽曲をとにかく各媒体で放送してみるなど、どのように処理していくかが重要とされる。
- 30年前のような情緒あふれるすばらしい映画音楽を今後もっと開拓してほしい。また、それを行うのは USEN しかないと考えられる。
- 映画楽曲に対する「懐かしい」などといった感想に世代間のギャップがあるため、それを埋めるのはなかなか難しいという問題点がある。
- 映画音楽番組は、案外需要が少ない、あるいは好まれていないのではないかと。
- 道徳教育的要素のある番組を一つ制作してみてはどうか。例えば、子供に人生を教えられる番組などあれば、USEN で反復して内容を放送することにより、非常に効果があると考えられる。

- 「世のため人のためになる番組」を持つといいのでは。例えば医療効果があるなど、社会的意義のある番組は、会社イメージにおいても大きく貢献すると考えられる。
- 音楽が商品として扱われる時代であるのだから、CM 音楽一つとっても、その音楽自体に聴く価値のあるものを制作・放送すべき。そこに潜んでいる芸術性・音楽性や市民性をより強調してほしい。音楽に対する「夢」やタレントに対する「憧れ」をもっと大切にしてほしい。